

# 普及情報

## 法人化した種子生産組合

加古川の水稲・麦の種子生産は、昭和29年に始まり、現在では平荘町の2集落、上荘町の3集落で種子組合を結成し、58haの水稲種子と10haの小麦種子の生産に取り組んでいる。

### 1 優良種子の生産体制

種子の必須条件は、純正、健全、良質で、このことと契約数量の確保に注意して生産に取り組まなければならない。この責任をはたすために種子組合では5集落の営農組合と協調して集団栽培、共同作業体制を構築している。

### 2 種子組合の役割

種子組合は栽培計画、作業計画作成、栽培指導、育苗センターと種子センターの運営及び関係機関との対応等種子生産の中核としての役割を担っている。

#### (1) 栽培計画

前年と同じ品種になるようほ場ごとに割り当てている。栽培面積の多い品種は、集落単位で集団化し、もち等は隔離された場所で団地化している。

#### (2) 栽培指導

肥培管理のほか異型抜きが採種栽培の大切な作業である。栽培講習会で品種特性、栽培基準等を徹底すると共に、各ほ場の状況を役員や関係者でチェックしさらに徹底を促している。

#### (3) 施設運営

育苗は田植えまで種子組合が管理する。同じ品種でも産地別、産年別には種しており、田植え時に取り違いが無いように注意している。

乾燥、調製では、荷受け時に初水分や品質などを

チェックし乾燥機を分けたり、乾燥温度の微調整など発芽率の向上に心がけている。また混種防止のための施設清掃は役員総出で入念に行っている。

### 3 営農組合の役割

営農組合は、オペレーターの確保と作業実施など実働部分を担っている。集落の若手がオペレーターを努めている。

### 4 種子生産の今後

45年目を迎えた今年4月には、働きやすい職場づくりを目指して農事組合法人「加古川種子生産組合」を結成した。これを契機に、財産管理、会計等事務処理の改善や労働条件の改善などを行い、わかりやすく、若い人にも参加しやすい環境作りに取り組み、種子生産の中核としての機能強化、後継者の育成に取り組んでいる。

また昨年からは、指定原種ほとして原種種子の生産にも取り組んでいる。今年は自ら生産した原種を使った採種栽培を行っている。

佐藤 吉昭（加古川普及センター）



勢揃いした組合の役員

ひょうごの農業技術 No.105

平成11年9月1日（隔月刊）

1部250円（申込先・県立中央農業技術センター）

兵庫県立中央農業技術センター（0790）47-1117

兵庫県立北部農業技術センター（0796）74-1230

兵庫県立淡路農業技術センター（0799）42-4880